

9つの概念

基本理論：手順の進行によって、中心となる効率目的が変化する



越田 正常 | Koshida Masatsune

(有)日本囲碁ソフト代表

■大阪府出身。信州大学卒。囲碁講師（アマ6段）。囲碁関西マンガ「岡目八目」の構成企画、学習ソフト「プロの碁」シリーズ、「死活アタック」、「布石定石AI」、対局ソフト「本因坊」、「囲碁初段」、「ミニ碁」、「すぐ碁が打てる」の企画・開発に携わる。インターネット上で、リアル対局場、ボード対局場を運営。著書に『パソコン&インターネット囲碁入門』（新紀元社）、『碁の方程式「基礎編」』（竜王文庫）。E-mail：igosoft@sun-inet.or.jp

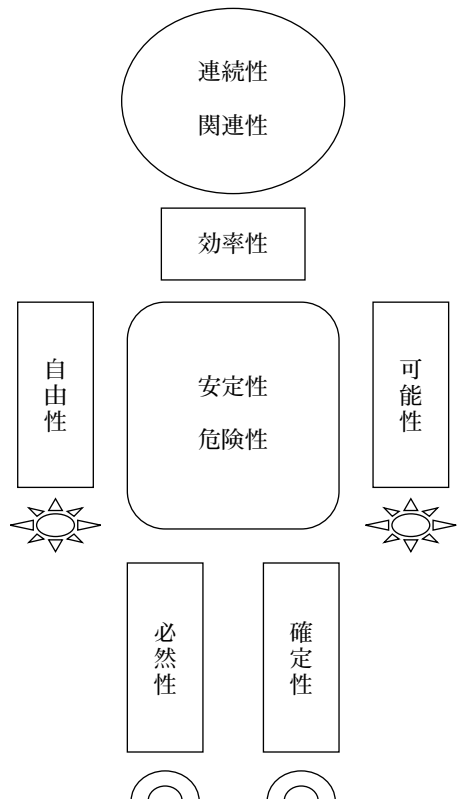
囲碁理論の体系を理解するには、これまで説明してきた「確定性」「可能性」「効率性」「連続性」などの基本的な価値概念の理解が重要です。これらの価値概念は、上記4つを含めて9つからなります。今回は、その概念を定義しながら、相互の関係性を考えてみたいと思います。

1. 9つの概念

価値概念には、「自由性」「可能性」「必然性」「確定性」「危険性」「安定性」「効率性」「関連性」「連続性」の9つがあります。これらの価値概念は、手順の進行にともなう不可逆的な変化、つまり、

- ①盤上に石数が増える
 - ②地として囲える可能性が減少する
- という2つの変化によって、その価値が影響を受け、変化します。

図1 9つの概念の関連図



(1) 自由性

定義：自由性とは、

- ①どこにでも打てる着手の自由性
- ②相手に反発できる構想の自由性

のことをいいます。

反対用語：必然性、確定性、制約条件

関連用語：可能性、危険性、勝敗の確定

形勢判断：自由性が大きいほど、「形勢が良い状態である」または、「形勢が良くなる」と判断できます。

発生要因：どこにでも打てるというゲームのルールから生まれています。

手順進行：関係度 5 (◎)^{注)}。自然に低下します。

特性：

- ①「制約条件」や「必然性」が大きくなると、自由性は小さくなります。
- ②「地になる関連性」や「石が取られる危険性」が大きければ、自由性は小さくなります。
- ③形勢が有利になると、「構想の自由性」は

大きくなりますが、形勢が不利になると、「地を囲う構想」が選択できなくなり、自由性は小さくなります。

(2) 可能性

定義：可能性とは、地として囲える大きさの度合いをいいます。

反対用語：制約条件、確定性

関連用語：自由性、死活、勝負手

形勢判断：地の囲い合いでも勝てるという状態が、形勢良しの判断基準になるため、地の囲い合いで勝てないときには、勝負手が必要になります。

発生要因：

- ①盤上に石を置くと、石数が増える
- ②打った石は動かさない
- ③勝敗は地の大きさで競う

というルールから生まれています。

手順進行：関係度 5 (◎)。可能性が減ると確定性が増大し、自由性が小さくなります。

図2 自由性の関係

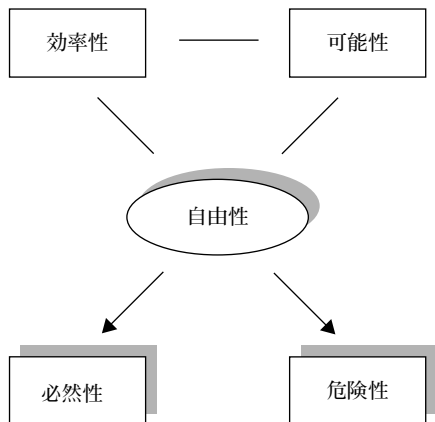
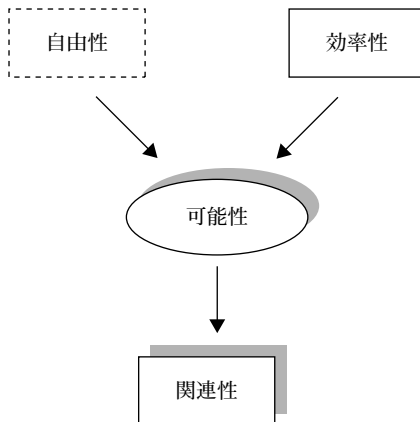


図3 可能性の関係



注) 手順進行によって、その特性が影響する関係度を5ランク (◎○◇△×) で表示します。